

Gunma Prefectural Cancer Center



群馬県立がんセンターだより

第16号

発行 平成19年12月 群馬県立がんセンター

理 念

私たちは、患者さんの気持ち尊重し、安心と満足が得られる高度のがん医療を目指します

基本方針

- 1 患者さんの権利と意思を尊重します
- 2 思いやりの心で、適切ながん医療を提供します
- 3 教育と研修を充実し優れた医療人を育成します

新病院開院から半年が経過して

平成19年5月7日に新病院として開院し、半年が経過いたしました。10月から旧病院の解体工事も始まり、外構工事の準備へと進んでおります。

病院技術部におきましても、最新鋭の機器が導入され、地域がん診療連携拠点病院としての使命を果たすべく努力しております。

検査課におきましては、生化学分析機と免疫血清分析機が連結された分析装置が導入され、1台で検査可能となり、外来で検査結果をお待ちいただく時間の短縮、検体採取量の少量化が図られています。また、外注で検査を行っていた前立腺癌腫瘍マーカーのPSAについて、院内で対応できるようにする等、サービスの向上につとめています。

その他、群馬県臨床衛生検査技師会の「細胞検査士取得のための勉強会」における2次試験対策としての研修希望者を受け入れ、医療技術者の向上対策にも協力しています。

放射線課におきましては、デジタル乳房撮影装置が導入され、精密な検査が可能となり、乳房生検専用装置であるマンモトームも導入され、精度の高い病理組織診断を行っています。また、3.0テスラMRI（核磁気共鳴装置）が導入され、今までの1.5テスラと特色を生かして使い分けることにより、精度の高い検査が可能になっています。

核医学検査では、最新鋭のPET/CT（陽電子断層装置）が導入され、全身のがん検索において、位置と範囲がより正確に判別できるようになりました。

放射線治療では、コンピュータ制御で照射位置の修正ができる装置が導入され、より高精度の治療が可能となっています。

栄養調理課におきましては、緩和食を実施しており、化学療法や放射線治療を行って、食欲不振や食欲低下をおこす患者さんに、希望を聞き、患者さんの状況を把握した上で、少しでも食べていただけるような食事を検討して提供するようにしています。

また、日本静脈経腸栄養学会のNST（栄養サポートチーム）稼働施設として認定されており、NST専門療法士実地訓練研修者を受け入れています。

技術部各課とも、各種研修会参加や専門認定資格取得につとめ、皆様に満足していただける医療を提供できるよう努力しておりますので、今後ともご支援をお願いいたします。



技術部長 茂田利夫

服薬指導について

服薬指導とは、一般に患者さんへの内服剤の説明と思われていますが、正式には薬剤管理指導と呼ばれ、医薬品を適正に使用するために行う薬剤師の情報提供活動のことです。

薬剤は内服剤、外用剤、注射剤、検査のための薬なども含まれ、全ての薬剤をトータル的に管理し、様々な情報を提供し処方に反映させることは、患者さんへ薬剤が適切に処方されることにつながります。提供する情報は、効能・効果、服用(使用)方法、副作用、相互作用、服用(使用)を忘れた時の対応、保管方法などです。

服用(使用)方法の大切なことは、決められた量と回数を守ることです。少なすぎると効果があらわれず、多すぎると中毒をおこしたりするので、ちょうどよく効く量(薬用量)が決められています。服用時間を食事と関連付けているのは飲み忘れを防ぐ目的もあります。個々の薬の最良の効果を最大に発揮させるために、薬の性質によって服用方法が決められています。

また副作用(服用・使用によるリスク)の情報は患者さんにとっても重要な情報のひとつです。本来の目的である有益な作用を主作用、期待しない作用が出ることを副作用といい、全ての薬はその両方をあわせ持っています。当センターはがん専門病院なので、多くの患者さんが内服剤や注射剤の抗がん剤による治療(化学療法)を行っています。化学療法は嘔気や脱毛などのマイナスイメージを持たれがちですが、患者さんの体調や体質なども影響するため個人差があり、使用する抗がん剤によって副作用のあらわれ方やあらわれる時期が異なります。現在は副作用を抑える様々な治療(支持療法)により症状をコントロールしやすくなっています。自覚症状がある副作用は看護師などの医療従事者よりも患者さん自身のほうが発見しやすいのです。起こりうる副作用の種類や発現時期、副作用の対処法や注意点について患者さんに理解していただくことは、副作用の初期症状をいち早くキャッチし対処するために重要な情報と考えられます。つまり患者さん自身に副作用の第一発見者となっていただくのです。

薬剤師はこのように具体的な薬剤の服用(使用)の意義や用法・用量、副作用などについての情報提供(服薬指導)を行い、患者さんの薬に対する不安や心配を取り除き、患者さん自身が積極的に治療に参加することが出来るようお手伝いをしていきたいと考えています。

通院治療センターってどんなところ？

がん化学療法認定看護師 堀 越 真奈美

2007年5月に新病院開設に伴って通院治療センターは生まれ変わりました。患者さんの日常生活を変えることなく、外来通院で抗がん剤の治療が行えるところです。できる限り、家庭に居ながら治療を受けたいという患者さんの気持ちを尊重しています。旧病院の外来治療室では、ベッド数が10床と少なく予約が取れず、やむを得ず入院して治療を行っていました。新病院ではベッド数を倍の20床に増床しました。そこで、外来治療に切り替える医師が増えて、外来治療患者数は確実に増加傾向にあります。完全予約制で1日の患者数は20名から35名です。科別割合は消化器外科・内科、乳腺科が殆どを占めています。専従の看護師は5人で、診察前の問診及び看護ケアにあたっています。当センターは他施設と異なり基本はベッドでの治療です。14床が個室でのベッドで6床が1部屋のリクライニングチェアです。患者さんのプライバシーを重視しリラックスして治療が受けられるように配慮しています。また、気軽に医療者に相談できるような環境作りを心がけています。看護理念「患者さんの権利と意思を尊重し、思いやりのある適切な看護を提供する」に基づいて日々、安全な医療・看護を提供しています。



抗がん剤治療に関するご相談やご質問がありましたら、お気軽にお立ち寄りください。抗がん剤治療に関する専門の看護師が常駐しております。



個室



個室

診療科紹介

麻 酔 科

当院麻酔科は4名の日本麻酔科学会認定専門医・指導医で構成されています。平成19年5月7日の新病院開院に向け、新たな手術室の設計、医療機器の整備、電子カルテと接続した手術部門システム、ICU部門システムの導入に取り組んでまいりました。おかげさまで、手術医療機器の新たな設置にも対応可能な手術室、患者さんが安全に手術を受けられる手術室が出来上がりました。手術室、ICUは病院の中でも特にチーム医療の実践が求められる部署です。外科系医師、麻酔科医、病理医、手術室看護師、ICU看護師、放射線技師、薬剤師、輸血・検査担当の臨床検査技師等、様々な方の協力が不可欠です。術中の突然の大量出血は患者さんの生命を脅かしますので手術中の輸血への対応はとて重要です。この時にチームワークがものをいいます。麻酔科医は手術が安全に行われるように、術前診察に引き続き、術中の麻酔管理、術後のICU管理を担当しています。また、月曜日、木曜日はペインクリニック外来において带状疱疹、带状疱疹後神経痛、頭痛、三叉神経痛、五十肩、腰下肢痛、がん性疼痛など痛みのある患者さんの治療を行っています。金曜日は麻酔科外来で翌週の手術予定患者さんの術前診察をしています。最近では患者さんの高齢化に伴い合併症のある患者さんが増加し、手術も長時間にわたることが多くなってきていますので術前評価はとて重要です。場合により追加検査が必要なこともあります。当院では患者さんに急変があった場合に職員が対応できるように、院内でBLS（一次救命処置）講習会が定期的開催されており、麻酔科はそのお手伝いをしています。さらに、群馬県医務課の依頼により救急救命士の気管挿管実習にも積極的に協力しています。いつ救急救命士にお世話になることがあるかもしれません。当院での実習はこれまで安全に行われていますので、手術を受けられる患者さんには是非御協力をお願いしたいと思います。

麻酔科 医師



♡ 入職半年を迎えて ♡

看護師 今井 沙織

入職して早いもので半年が経過しました。病棟業務にも徐々になれ、自分にできる仕事も増えてきたことで自信が持てるようになってきました。

入職当初はわからない事や経験した事のないことばかりで、患者さんとうまく関わることができませんでした。新人であっても患者さんにとっては1人の看護師であるため、自分自身の知識・技術を向上させるために日々勉強していかなければならないと感じています。また、がん看護を提供していく上で患者さんだけでなく、家族を含めた看護の大切さを改めて実感しました。辛い事もありますが患者さんとの関わりの中で感謝の言葉や会話を通して励まされると、看護師になってよかったと思います。医療や看護は人と人との関りを通じて提供していくものなので、日々笑顔で心がけていきたいです。患者さんやその家族にとって必要な看護を一緒になって考え、信頼される看護師を目指してこれからも頑張っていきたいです。



総合相談支援センター
セカンドオピニオン外来のご案内

セカンドオピニオンとは、患者さんが現在治療されている病院での診断や治療方針について他の医師の意見・判断を聞くことです。意見・判断を聞くことにより、患者さんがご自身の治療などを選択する際にご参考にしていただくことを目的としています。

例えば、

- がんと診断されたが、本当にそうなのか聞いてみたい。
- 医師より手術が必要と言われたが、他の治療法がないのか聞いてみたい。
- 積極的な治療が出来ないと言われたが、いい方法がないか聞いてみたい。など。

このようなときが対象になります。

セカンドオピニオンは**完全予約制**です。まずは総合相談支援センターまでお電話を頂くか、紹介状・資料・印かんをご持参の上ご来院ください。

相談時間はおおむね30分です。料金は自費で7,350円となります。（健康保険は適用になりません）

詳しくは、総合相談支援センターへご相談ください。

受付時間 平日8:30～17:00 電話番号 0276-38-0771(代)

外来診療のご案内 (外来担当医一覧表)

平成19年12月1日現在

診療科名		月	火	水	木	金	
第一外来	内科	消化器	野川 秀之 多賀谷蘭子	今 陽一 茂木 健太	野川 秀之 保坂 尚志	今 陽一 多賀谷蘭子(午前) 保坂 尚志(午後)	茂木 健太
		血液	五十嵐忠彦	五十嵐忠彦	村山佳予子	村山佳予子	五十嵐忠彦
		呼吸器	湊 浩一 (午後/禁煙外来)	湊 浩一		吉野 麗子	
	外科	消化器	岡田 寿之	澤田 俊夫 深井 康幸	中村 哲之 平山 功 瀧瀬真一郎	芳賀 紀裕 友澤 滋	河野 至明 鮫島 伸一 平山 功
		乳 腺	柳田 康弘 木下 照彦 藤澤 友巳	柳田 康弘 木下 照彦 藤澤 友巳	乳腺科医師	乳腺科医師	
		呼吸器			田中 良太		田中 良太 ストマ外来
第二外来	婦 人 科	休 診 中					
	歯科口腔外科	山城 正司 愛甲 勝哉		山城 正司 愛甲 勝哉		山城 正司 愛甲 勝哉	
	頭 頸 科	藤城 芳徳 明石 健		藤城 芳徳 明石 健		藤城 芳徳 明石 健	
	麻 酔 科	高橋 利文			猿木 信裕		
	泌 尿 器 科	清水 信明 蓮見 勝	清水 信明 濱野 達也		蓮見 勝 (午前) 濱野 達也 (午前)	清水 信明	
放射線科	放 射 線	玉木 義雄 北本 佳住		玉木 義雄 北本 佳住		玉木 義雄 北本 佳住	
総合診療		湊 浩一	澤田 俊夫	中村 哲之	今 陽一	河野 至明	

院内コンサートのご案内

12月17日(月)午後7時

「クリスマスコンサート」



モンソロ

弦楽五重奏団

場所 第2外来待合ホール

病院ボランティア募集

当センターでは、ボランティアの暖かい手助けにより、患者さんが心の安らぎを得られるような環境作りができればと考えています。ボランティア活動に興味をお持ちの方は、ご応募ください。

■活動内容 外来での案内・補助、院内の美化活動、環境整備活動、コンサート

■活動時間 平日(土・日、祝日を除く)の8:30~17:15で、都合の良い時間

■お申し込み・問い合わせ先 総務グループ 内線4112

診察予約 (初診、再診ともに予約制です。)

・初診紹介予約制について

当センターは「完全紹介予約制」です。初めて受診される方はあらかじめ電話で診療日時を予約をしていただき、診療当日は必ず主治医の紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。また、再来の方も予約制となっておりますので、事前に予約をおとりください。

・がん検診について

当センターでは、がんの検診(一次検診)は行っておりません。市町村の検診や人間ドックをご利用ください。検診で異常を指摘された方の診療は行ってあります。

予約電話 0276-38-0762

・受付時間：午前9時から午後5時(休診日を除く)

・電話予約は診察を希望する日の1か月前から前日の午後1時までをお願いします。

※休診日 土・日曜日、祝日、年末年始

面会時間 午後0時30分~午後7時30分

群馬県立がんセンター

〒373-8550 太田市高林西町617-1

TEL 0276-38-0771 (代)

FAX 0276-38-0614

URL <http://www.gunma-cc.jp>

